

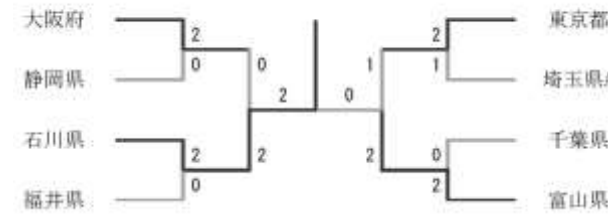
～試合結果～

日本マスターズ 2014 埼玉大会バドミントン競技
 平成 26 年 9 月 20 日～22 日
 埼玉県久喜市 久喜市総合体育館
 男子団体 予選

男子団体 予選リーグ B-1			男子団体 予選リーグ B-3		
埼玉県	2-1	静岡県	静岡県	2-1	福島県
新井 基之 川野 健志	0 0	中村 聖幸 山田 雅弘	山田 雅弘 山田 雅弘	1 1	土佐 正樹 上野 孝二
丸山 俊彦 山本 和久	2 2	山田 雅弘 山田 雅弘	山田 雅弘 山田 雅弘	2 2	上野 孝二 上野 孝二
小野 泰仁 小野 泰仁	0 0	山田 雅弘 山田 雅弘	山田 雅弘 山田 雅弘	0 0	上野 孝二 上野 孝二

男子団体 Bブロック	静岡県	埼玉県	福島県	勝-敗	順位
静岡県		× 1-2	○ 2-1	M 3-3 G 8-7 P 283-251	1
埼玉県 B	○ 2-1		× 1-2	M 3-3 G 7-7 P 252-264	2
福島県	× 1-2	○ 2-1		M 3-3 G 7-8 P 269-289	3

男子団体 決勝トーナメント



女子団体 予選

女子団体 予選リーグ B-2			女子団体 予選リーグ B-3		
茨城県	2-1	静岡県	石川県	3-0	静岡県
小野 泰子 岩崎 めぐみ	0 0	石井 和重 中井 聖幸	藤本 利美 長丸 貴子	2 2	石井 和重 中井 聖幸
森 祥美 羽生 美恵	2 2	石井 和重 中井 聖幸	藤本 利美 長丸 貴子	0 0	石井 和重 中井 聖幸
大島 祥子 大島 祥子	0 0	石井 和重 中井 聖幸	藤本 利美 長丸 貴子	0 0	石井 和重 中井 聖幸

女子団体 Bブロック	石川県	茨城県	静岡県	勝-敗	順位
石川県		× 1-2	○ 3-0	M 4-2 G 9-4 P 247-226	2
茨城県	○ 2-1		○ 2-1	M 4-2 G 9-5 P 268-219	1
静岡県	× 0-3	× 1-2		M 1-5 G 2-11 P 191-261	3

第 101 回静岡県教職員バドミントン選手権大会

平成 26 年 11 月 30 日 伊東東小学校

男子 1・2 部ダブルス

- 1位 湖東・佐藤(浜松医療学院・海の星高校)
- 2位 小川・吉原(新通小・県教委)
- 3位 御宿・杉山(三島長陵高・県協会)

男子 3・4・5 部ダブルス

- 1位 成岡・原(市立沼津高校・中等部)
- 2位 芦澤・高橋(中央特別支援学校)
- 3位 勝又・櫻井(中央特別支援学校)

女子 4・5 部ダブルス

- 1位 稲葉・安池(中央特別支援学校)
- 2位 山本・落合(長泉小)
- 3位 繁田・山尾(中央特別支援学校)
- 3位 鈴木・富岡(大岡南小)

平成 26 年度 東海総合バドミントン選手権大会

平成 26 年 9 月 20 日～21 日

三重県四日市市 四日市中央緑地体育館

男子ダブルス 1 回戦

- 大野・尾崎(静岡) 0-2 佐藤・松本(岐阜)
- 塚本・佐野(静岡) 0-2 間瀬・浦井(岐阜)
- 山崎・細田(静岡) 0-2 石川・富山(岐阜)
- 栗・山下(静岡) 0-2 川下・三好(愛知)

男子シングルス 2 回戦

- 栗 佑貴(静岡) 1-2 大森康平(岐阜)

混合ダブルス 1 回戦

- 栗下・村松(静岡) 1-2 高橋・峰(岐阜)
- 長谷川・太田川(静岡) 0-2 小林・川添(三重)

第 7 回 全国社会人クラブバドミントン大会

平成 26 年 6 月 21 日～22 日

愛知県豊田市 スカイホール豊田

一般男子シングルス 1 回戦

- 下池賢二(ジュピター) 0-2 東崎裕史(兵庫)
- 渡辺将弘(ジュピター) 0-2 仲 優一(和歌山)

40 歳以上男子シングルス 1 回戦

- 落合佐多央(ジュピター) 2-0 北野英基(兵庫)

2 回戦

- 落合佐多央(ジュピター) 0-2 中島信頼(愛知)

50 歳以上男子シングルス 1 回戦

- 佐野康之(SWAC) 0-2 神代和久(富山)

55 歳以上男子シングルス 1 回戦

- 斉藤栄徳(SWAC) 0-2 森本和幸(三重)

一般男子ダブルス 1 回戦

- 下池・渡辺(ジュピター) 0-2 綿谷・川之上(石川)

50 歳以上男子ダブルス 1 回戦

- 伊藤・木田(静岡・SWAC) 2-0 馬場・正木(兵庫)

- 石川・駒木根(SWAC) 0-2 磯・武藤(千葉)

2 回戦

- 伊藤・木田(静岡・SWAC) 0-2 川口・近藤(京都)

- 佐野・斉藤(SWAC) 2-0 中前・松本(富山)

準々決勝

- 佐野・斉藤(SWAC) 2-1 百田・牛尾(兵庫)

準決勝

- 佐野・斉藤(SWAC) 0-2 青柳・鳥羽(千葉)

60 歳以上男子ダブルス 2 回戦

- 西島・吉岡(富士宮クラブ) 2-0 河村・野田(京都)

3 回戦

- 西島・吉岡(富士宮クラブ) 0-2 永井・田原(岡山)

第 46 回静岡県大学バドミントン選手権大会

10 月 5.11.12 日 静岡県立大学

男子 1 部

- 優勝 静岡大学浜松 A
- 準優勝 静岡大学 A
- 3 位 静岡県立大学 A

男子 2 部

- 優勝 日本大学 A
- 準優勝 常葉大学静岡 B
- 3 位 常葉大学浜松 A

男子 3 部

- 優勝 浜松医科大学 B
- 準優勝 静岡県立大学 C
- 3 位 常葉大学静岡 C

女子 1 部

- 優勝 静岡大学 A
- 準優勝 浜松医科大学 A
- 3 位 静岡県立大学 A

女子 2 部

- 優勝 常葉大学静岡 B
- 準優勝 日本大学 A
- 3 位 浜松医科大学 B

以来、事は急速に進み 11 月には中華台北羽球協会秘書長の蔡鴻鵬氏が来静、静岡市及び富士宮市への入念な視察も行われたのであるが、聞くところによれば、中華台北におけるバドミントン人口は百万人に達すると言ひ、会員登録二十六万人を目指す日本とは比較にならないメジャースポーツとして広く国民に親しまれているとのこと、県協会としても会員の普及に向け新たな交流先として多く期待を寄せるものである。

いずれにしましても、私達競技団体としてはこの取り組みにおける県内一番煎じとしてその役割と重責を担う立場にもあることから万全の準備を図りつつ今後は関係各位の皆様の特段のご支援ご協力の下にその実現に最大限の努力をしたいと考えるものであります。

ところで、昨年、私達バドミントン界は正に飛躍の一年となった。

なかでも、国別対抗団体戦「男子トマス杯」及び「女子ユーパー杯」の制覇は私達の永年の悲願であったのですがその歴史的瞬間にバドミントン界は至福の境地に至ったのである。また、それに続きワールドスーパーシリーズファイナルでも女子複が日本選手として初優勝、女子単が 3 位入賞するなどこのところの日本選手における世界への躍進振りは眼を見張るばかりであり、なかでも十代の若手選手の活躍は今後に向けてより明るい展望と言える。また、本県ジュニア層も全国小学生大会での頑張りもあり J ナショナル・チーム入りする選手も出るなど今後の活躍に胸弾む思いである。

トマス杯&ユーパー杯 2014 は、団体戦によるバドミントンの世界選手権、第 28 回世界男子バドミントン選手権(トマス杯)及び第 25 回世界女子バドミントン選手権(ユーパー杯)である。本大会は 2014 年 5 月 18 日から 5 月 25 日にかけて、インドのニューデリーで開催された。トマス杯は決勝を日本とマレーシアが争ひ、3-2 で日本が初優勝した。ユーパー杯は決勝を中国と日本が争ひ、3-1 で中国が 2 大会連続 13 回目の優勝を果たした。

島田高校バドミントン部 顧問 藤原士郎

本校は県の中部大井川のすぐ東側に位置しています。前身は女学校の男女共学普通高校です。女子バドミントン部の創部はいつごろかはっきりしませんが、おそらく 40 年以上は経っていると思われます。図書館にある卒業アルバム 43 年前のものに部活動の写真が載っていました。現在部員数は 27 名、ほとんどが高校入学後にバドミントンを始めた者です。ここ 2 年はクラブチームでの経験者が若干名入部しましたが、それまでは間違いなく、中学校体育の経験者がいる程度であったと思います。

放課後練習は 2 時間 20 分程度、週 3 回は 1 時間半、週末によろやく 3 時間練習ができます。体育館は卓球部と共有、正式にはコート 3 面分取れますが、平常時は白の簡易テープと簡易ネットで体育館の半分に無理やり 2 面分を作って活動しています。当然 27 名は同時にコートに立てる訳はなく、3 年生がいなくなった後でも 20 名の部員は交代で走ったりトレーニングをしたりして活動しています。しかしながら、上達しようという気持ちだけではどのチームにも負けまいと、一人ひとりが工夫して、時間を見つけては素振りをしたり壁打ちをしたりして毎日の放課後の部活動を充実したものにしようとしています。

今年度新人戦、シングルで 1 人が県大会へ出場しました。現段階の目標は、学校対抗戦での県大会出場です。個人だけではなくチームの力として、島田高校のバドミントンを見てもらえるよう頑張っていきます。

一方、世界の動向であるが『世界バドミントン連盟(BWF)』は現在、バドミントン競技の一層の拡大、メジャー化に向けて「新スコアリング・システム」を策定中であり遅くとも 2016 年のリオデジャネイロ・オリンピック以降に決定、導入を図るべき準備を進めている。正直、これはオリンピックにおけるマスメディア(Live 放送)との絡みが強いがバドミントンの競技特性そのものに関わる重要な問題だけに慎重な議論が続いている。

因みに、「新スコアリング・システム」の概要(案)は次の通りである。
【現行の 21 ポイント制を 11 ポイント 5 ゲーム制に変更】
 ① 10 ポイントオールで 15 ポイントまでの延長ゲーム案
 ② 10 ポイントオールで 3 ポイント先取のセッティング案
 ③ ゲーム間のインターバルは 1 分

これらは、既に BWF 下の大会で試行中であるが今後様々な検証がなされ 2016 年の BWF 総会で提案、理事会の承認を得られれば以後、国際、国内大会及び東京オリンピック・パラリンピックはこの「新スコアリング・システム」が実行に移されることになる。

以上、今年度も多くの賑わいと話題性たっぷりのバドミントン界になるものと思われまますが、県協会としましても会員の皆様との一層の連携確立を図り選手の育成、強化並びに会員の拡大に努めたいと考えております。

本年も皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。